

No.434
国外宣教

この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。 マタイ24章14節

『カモーン宣教』全体集会&分科会報告

国外宣教委員

よしだ あつし
吉田 篤

大会の三日目「カモーン宣教」

のめあてとして、神の御国の働きに青年たちが参与していくことを願い、祈りつつ備えました。全体集会では齋藤謙治兄を通してミッショントリップへの勧めとアピールがありました。また三つの分科会では青年たちが具体的な国外宣教の働きに関わっていくことを願いつつ、以下、国外宣教委員会が担当した分科会の報告をいたします。

全体集会
齋藤謙治兄弟

「Youは何しに日本へ？」

20数年前、日本宣教のために
スイスからやってきたオーニン

オーニンガー師夫妻（左）
とリン姉妹（右）

ガー師と玲子夫人。ご夫妻は現在OMFの宣教師として、若いクリスチャン同士のつながりを通して宣教していく「LINK」という働きをしています。誰でも参加できるこのプログラム。可能性を感じました。（興味のある方は国外宣教委員会までご連絡ください。）ご夫妻の言葉「宣教師になって本当によかった。いろんな苦労はあったけれど、神様の救いのみ業を間近で見せていただけたから。」また、1年間の短期宣教師としてマレーシアから来日しているリン姉妹も、委ねて従った時、すべてを満たしてくださった神様のすばらしさを証してくれました

た。神様に従う人生は、喜びに満ちていることを知る分科会でした。

「ブラジルへ行ってQ」

分科会(石川新)

12時間の時差。参加者19名は、スカイプで浜田宣教師に自己紹介をしました。グループに分かれ、コーヒーを片手に浜田宣教師からの7問のクイズに挑戦。「我が家の前で最近起こったことは？」という難問も。答えは「近所の家族が道にペイントでサッカーコートを書いたこと」。サッカー王国ブラジルならではの納得しました。移民の歴史、ご家族のこと、教会の働き（若者伝道、高齢者伝道、洗礼式等）、日本語スピーチ大会、Q&Aと盛りだくさんのプログラムを通

ブラジルの浜田師夫妻と
スカイプでこんにちは

して、WAKKATA!!ひと時でした。来夏予定されているミッショントリップへの呼びかけがあり、グループに分かれて祈りました。

「中国を知らなきゃアジア宣教は始まらない」分科会(吉田篤) この分科会では、中国の教会（特に「家の教会」について）の現状及び中国から展開されつつある世界宣教の今後の展望について話されました。特にアジア諸国への中国からの影響について、またトルコ共和国が今後の鍵となるという観点について色々と考えさせられました。トルコとの関係についての呼びかけに対して、日本の教会が今後どのように応答していくべきなのか。世界宣教を考える上での新たな視点が与えられました。大切なことは現地に赴くことに尽きます。

中国とアジア宣教について
考えました



子どものまわり

モンゴル 教団派遣宣教師
アムガラン聖書教会

矢田紫野

学習センターに来る子どもたちを取り巻く状況は、モンゴルの、特にウランバートルのゲル集落が置かれている状況をそのまま反映しています。かなり多くの家庭に親の離婚、失業、アルコール依存、家庭内暴力、ネグレクトなど何らかの痛みがあり、子供の成長に大きく影を落としているケースが少なくありません。

この夏からセンターに来始めたアミナー君は9月から新一年生。最初の頃はじっと座っていられませんでしたが、加えて気に入らないことがあったり注意されたりするとすぐすねてしまいい、手がつけられなくなります。長く祖父母の元にて幼稚園での集団生活を経験していませんでしたが、後日聞いたところによると、母親はアミナー君が小さい頃に離婚し（最近再婚）その後彼がまだ2歳位の頃彼一人を家に閉じ込めたまま数日帰宅しなかったことがあったとのこと。その時の恐怖感が深い傷になっているのかもしれないという人もいます。少し前も、その

日はご機嫌斜めで、今いる家（母親の再婚相手の実家）は僕の家じゃない、お母さんは僕なんかじゃないんだ、などブツブツ言っていました。たった6年の人生で彼が背負ったものの重みを思うとことばがありません。同じく最近センターに来始めたドルジスレン君は4年生。センターのスタッフが家庭状況について聞いたところ、お父さんが原因不明の病気でしたらしく前から入院中との話。詳しく聞くと、以前何度も刺されて、その後良くなったのだが、その後突然体調を崩しての入院とのこと。何度も刺されてって？状況が良くわかりませんが、路上でケンカになり刃物沙汰になる、という話自体は、ここでは想像つかないことありません。先日所用でセンターに来られたお母さんはどこことなく疲れているようにも見えました。

そんな子どもたちが教会学校にもつながって、今教会学校の主力は1〜5年生です。そこに8年生のミャンガー君が久しぶりに来るようになりました。4、5年前学習センター、教会学校

ともに常連だったのですがここ数年ぱったり来ていなかった子です。彼の家庭もネグレクトぎみの話を聞いたことがありました。先日は中高生の大きな集会が近隣教会であった際に旧新約聖書がプレゼントされ、大喜びで教会学校に持ってきてくれました。聖書のお話の際も大きく頷きながら聞いている彼。何年足が遠のいていても、神様は彼を忘れていないし、彼も心のどこかで覚えていたということでしょう。彼の姿は同時に、最近すっかりご無沙汰の沢山の子ども達をも主は覚えておられること、彼らを取り巻く環境の中でも蒔かれたみことばの種がいつか芽を出す可能性がある、というしるしでもあるのです。



夏休み中は工作をたくさんしました

宣教師近況・祈祷課題

◆齋藤五十三・千恵子（台湾）

五十三は松原湖研修会で奉仕があります。実に14年ぶりの参加なので楽しみです。13日には、中野教会を会場に論文発表会。台湾に残る千恵子、真依の歩みも守られますように。

◆矢田紫野（モンゴル）

9月から学習センターも新しい年度が始まりました。今年は午前・午後の部合計24名の子どもを受け入れる計画ですが、現在のところ午前中に来れる子がほとんどいません。必要な子が送られてくるように。また教会学校に定着した子たちがさらにしっかりとイエスさまを信じる信仰に立つことができるように。

◆浜田献・陽子（ブラジル）

教会の働き人のため（安井敏明牧師、弘子夫人、マギダ伝道師、役員の兄弟姉妹）。私たち家族の健康と信仰の守りのため。ブラジリア教会が主の御旨にかなった地域の灯台、世の光となっていけるように。

◆河野晃・美千代（タイ・バンコク）

宣教師ビザを無事に取得することができました。また、主日礼拝の奉仕も無事に守られました。お祈りをありが



生きた交わりに憩う

ブラジル 教団派遣宣教師

ブラジリア・アライアンス・キリスト宣教教会

はまだけん ようこ
浜田献・陽子

ここブラジリアは朝晩の寒さも和らぎ、8月末現在、黄色のイペー（国花）が青空に映えて見事に花開いています。皆様の絶えざるお祈りとご支援を心より感謝しつつご報告いたします。

子どもたちの現地校が7月末から、教会の日本語学校が8月からそれぞれ再開し、日常のペースを走っています。浜田家の朝食は6時半、7時には子ども4人を車に乗せて学校へ出発、7時半から12時までが学校の勉強です。ブラジルの学校は半日制のため、正午には再び車で迎えに行きます。午後からは家で宿題をしたり、語学やサッカー等の習い事に出かけます。日本のように子どもだけで徒歩や自転車で出かけることが治安上難しいため、子どもの送迎業は親の責任となります。私は週二日の日本語学校での働きを軸にしながら、家庭集会や訪問、日曜日の礼拝説教や聖書研究の奉仕に携わっています。妻は止むことのない主婦業に心を砕いて家族に仕えながら、4人の子どもたちの成長を見守っています。



聖書研究後の青年たち

先日8月16日には、同盟教団のフロンティア青年宣教大会に参加し、分科会の奉仕をさせていただきました。インターネットを介しての参加でしたが、地球の裏側からリアルタイムで奉仕できたことはテクノロジーの賜物です。20名ほどの青年たちと「ブラジル知ってるつもりクイズ」に興じたり、意外と知らないブラジル移民の歴史のビデオを見たりしながら、ブラジル宣教の現状や必要をお分かちしました。あつという間の2時間の集会が終わり、別れを惜しむつつスカイプを切ったのですが、一抹の淋しさが残りました。パソコンの画面で互いの顔を見ているながらも、やはりその場の

<ご報告>

長谷部愛実宣教師は壮行会9月3日（日）-新潟山形宣教区主催-の後、ビザ取得ができ9月末に出発予定です。詳しくは11月号にてご報告いたします。国外宣教委員会

雰囲気や参加者の思いを十分につかみとることができないもどかしさと距離感を感じたからでしょう。同じ場所に集まることとがいかに幸いかを実感しつつ、すでに来年のミッシェントリップへの期待が膨らんでいます。今回フロンティアに参加した青年の皆さんたち自身が「共に集まることの幸い」を何よりも満喫されたのではないのでしょうか。ネット社会の今日であるからこそ、一つ所に集まる機会を優先し、心の通う生きた交わりに憩うことが必要なのでしょう。日本の皆様一人一人が諸教会にある生きた交わりの中で安らぎ、主ご自身との交わりに日々の力を得ていくことができますように祈ります。私たちのためにもお祈りください。

とうございました。続けて奉仕が守られますように、また妻が体調を崩していますのでいやすのために祈りをお願いいたします。

◆林武志・趙伶優（東南アジア）
はやたけし ちようりんひょう

東南アジアA国に来て、1カ月が経ちました。大分こちらの生活にも慣れてきました。妻の教師としての働きのため、子ども達の学校、幼稚園での生活のためにお祈りください。

◆金煥・朴貞玉（南アフリカ）
きんわん ぱくてんぐく

9月25日、「和解の宣教集会」がスタートします。幸いに朝岡勝先生が来られ、開設礼拝メッセージと記念講演をしてくださいませ。神様の和解の御業に忠実に仕える集会となるようお祈りしてください。

◆長谷部愛実（タイ・チェンマイ）
はせべ あいみ

いつも、お祈りをありがとうございます。無事にチェンマイでの生活をスタートいたしました。まずは、現地適応と語学習得に励みます。今後のチェンマイでの牧会生活と宣教協力のため、ふさわしい自動車を与えられるよう、どうぞ引き続きお祈りください。こちらでは、中古でも値段があまり下がりません。



タイでの一年を振り返って

タイ 教団派遣宣教師 (語学研修)

バンコク・グレースインターナショナルスクール

こうのあきら みちよ
河野晃・美千代

「さあ、目を上げて、あなたがいるところから北と南、東と西を見渡しなさい。．．．」(創世記13章4〜17節)

タイ宣教のために祈りくだ
さりありがとうございます。こ
の9月で私たち家族はタイでの
一年目の歩みを無事に終えるこ
とができました。5歳の長男と
3歳の次男は長い夏休みを乗り
越え、先月末より再び幼稚園に
戻ることができました。タイ人
の友達もでき、少しずつですが
タイ語も話すこともできるよう
になってきています。毎週土曜
日にはアウトリーチ（訪問伝
道）に参加。大人や高校生たち
と一緒にタイの子どもたちにイ
エスさまを伝えようと奮闘して
います。こちらで生まれた長女
も6ヶ月になりました。体重も
2.5倍に増え、妻に抱っこをされ
ながらタイ語の授業に参加する
ことが日課となっています。私
たち夫婦はタイ語の学びを中級
レベルまで終えることができました。
まだまだ悪戦苦闘中ですが、
夫婦でここまで前進できた
ことを感謝しています。

この一年、多くの困難があり

ました。しかし、主はその困難に勝る溢れんばかりの恵みをもって私たち家族を導いてくださいました。自分自身の力の無

さに落ち込む私たちに、「さあ目を上げて見渡しなさい」と環境や自分の弱さではなく主「自身を見上げるように語られ、そして「あなたがいるところから」と今問題を抱えているのところから始めることができる、このところから祝福を見ることができのだと力強く励ましてくださいました。主は今日も愛もって語り掛けてくださるお方です。この主との恵みの関係のゆえに私たちは歩み続けることができました。そしてもう一つ、欠けばかりの私たちがここまで歩むことができたのは、多くの方々の尊いとりなしの祈りとご支援があったことを強く思わされ心から感謝しています。諸教会の皆様、本当にありがとうございます。ございました。

ある日のディボーションの際、一テモテ4章1〜16節の御言葉から、按手を受けたものとして聖霊の賜物を軽んじることなく、聖書の朗読と勧めと教え

とに専念し、心を砕いてますますしつかり歩むようにと教えられました。タイ語の学びと奉仕、そして子どもたちの世話であったという間に過ぎ去る日々の歩み。しかし、改めて主に「ことば」にも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも」しつかり氣を付け、新たな一年をスタートするよう示され、悔い改めとともに強く祈らされています。

私たちは本当に足りない者で、家族にも、また出会わされているタイの人々にも愛と忍耐の薄い者ですが、この地の宣教の働きに召してくださった主に信頼し、諦めずに、主と共に一足一足前進して行きたいと願っています。肉体の鍛錬された姿が美しいように、敬虔のための鍛錬がどれ程美しいものであるかを思わされ、いくらか有益とされる肉体においても、また敬虔においても鍛錬していく新たな一年にしたいと願っています。私達の二年目のタイ宣教の歩みと、その歩みの中における霊肉の鍛錬を覚えてお祈りいただけましたら幸いです。

河野晃・美千代

＜自動車献金のお願い＞

現在、3組の宣教師が車両を必要としています。

購入のための必要額は、合計で **450** 万円です。

(内訳：浜田師 200 万円、河野師 150 万円、林師 100 万円※)

安全な移動（特に子どもたちの送迎など）のためには、自動車が必須です。必要が満たされるようお祈りとご協力をお願いいたします。送金先：郵便振替 00120-5-142886 日本同盟基督教団事務所

※送金の際は、「国外宣教・自動車献金」と明記ください。※国外では中古車でも値段が下がらないことが多く、また国によって物価の違いがあります。なお浜田師一家は7～8人乗りの車を必要としています。

